

名古屋市における津波避難ビル指定 に向けた学校施設の整備

名古屋市の立地



名古屋市の立地



南海トラフ地震の被害想定

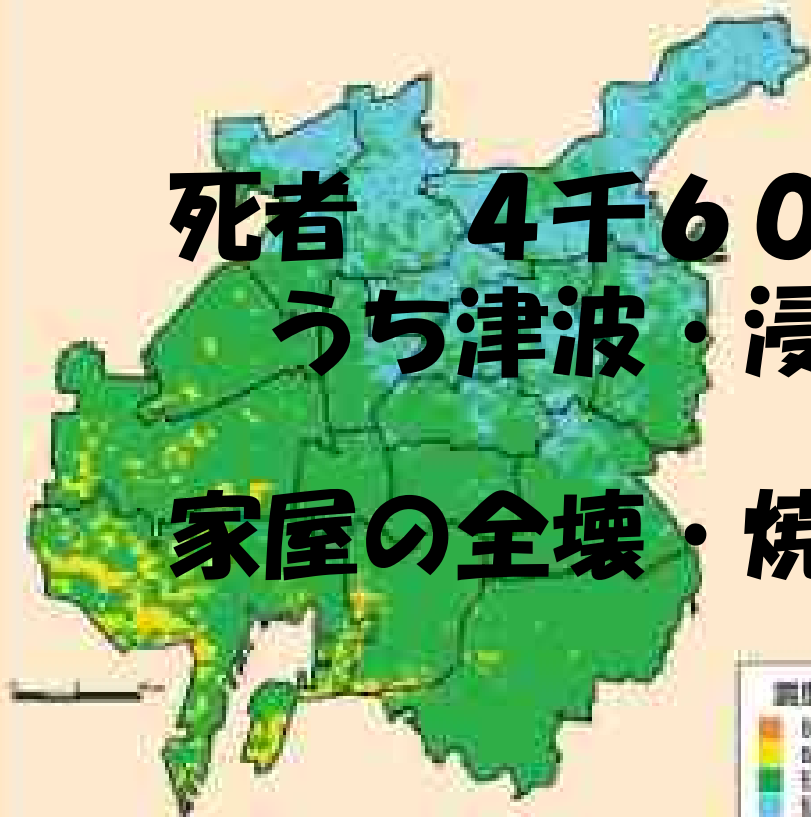
東海地震

東海・東南海連動地震

死者 4千600人

うち津波・浸水 2千300人

家屋の全壊・焼失 6万7千棟



津波による被害想定



水害に対する過去の記憶

住居の被害 1万8千戸以上

死者・行方不明者 1,800人以上

伊勢湾台風の様子





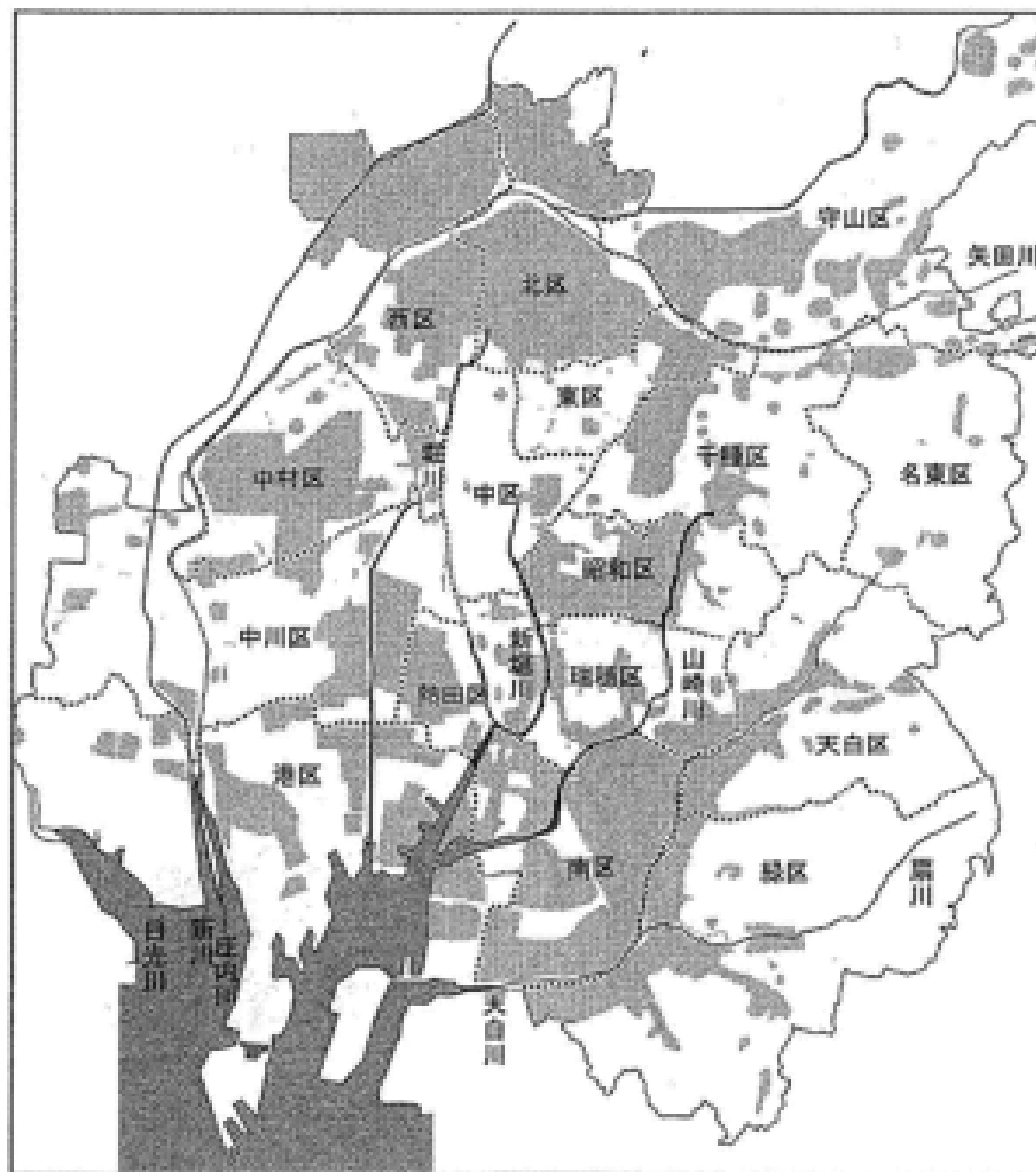
水害に対する過去の記憶

住居の被害 3万戸以上

死者・行方不明者 4人

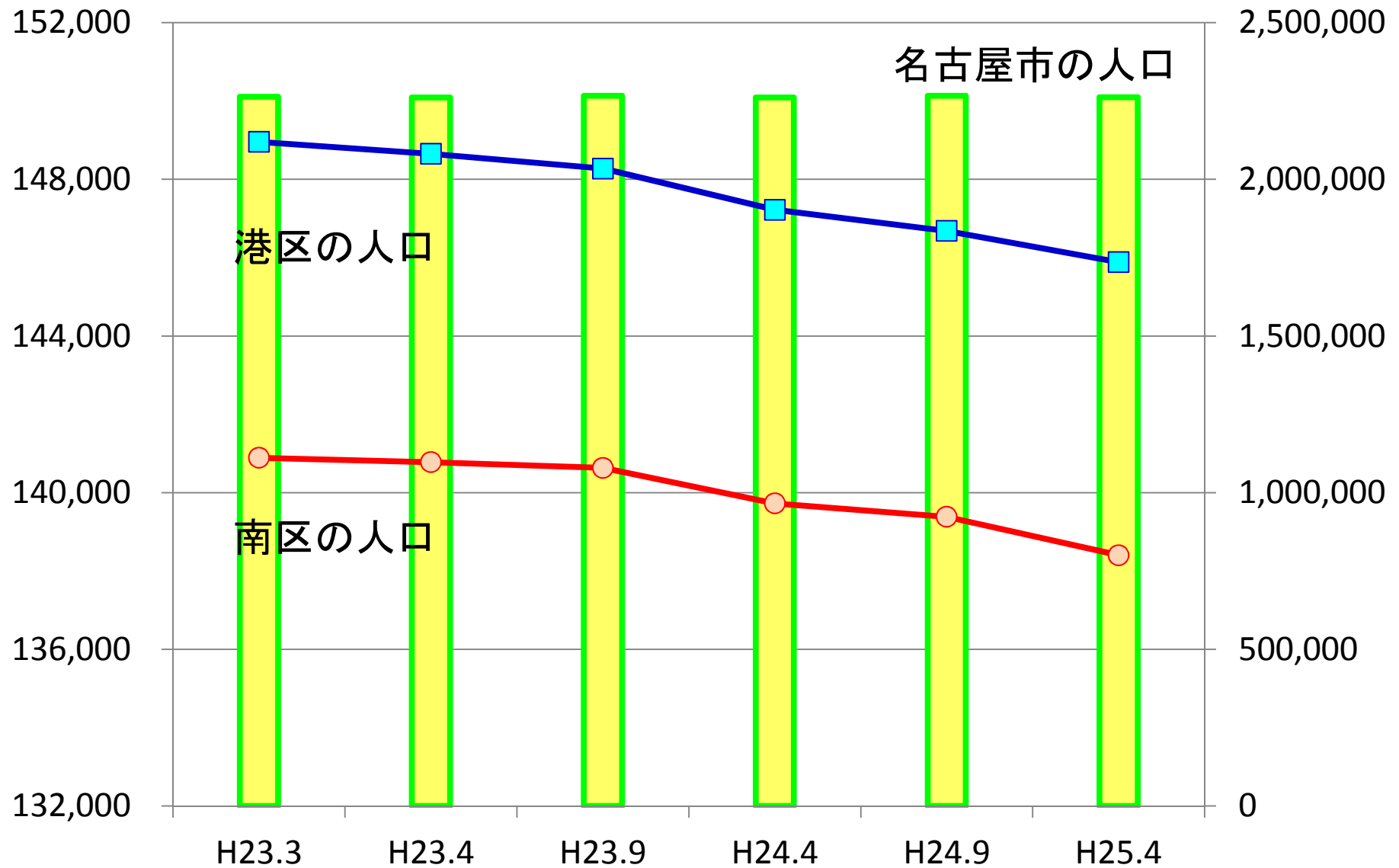
東海豪雨の様子

水害に対する過去の記憶



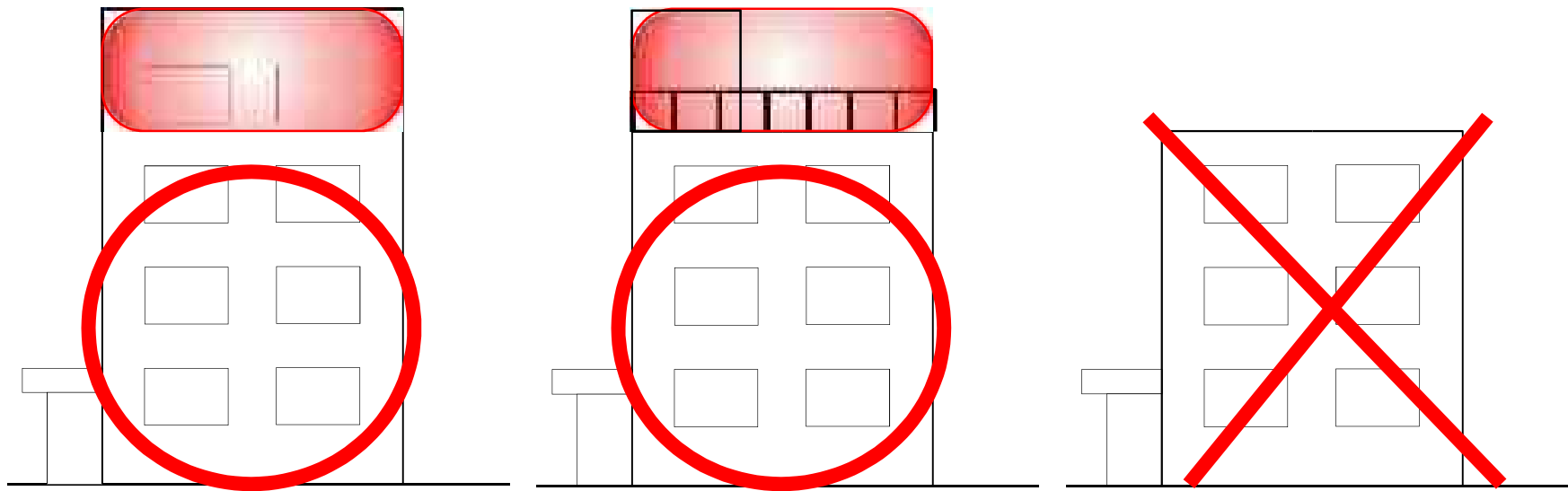
■ 概ね 30 分以上浸水
していた箇所

人口の推移



津波避難ビルの考え方

- ①耐震性があるもの
- ②常に出入りが可能であるもの
- ③RC造かSRC造の4階床高さのあるもの



4階建

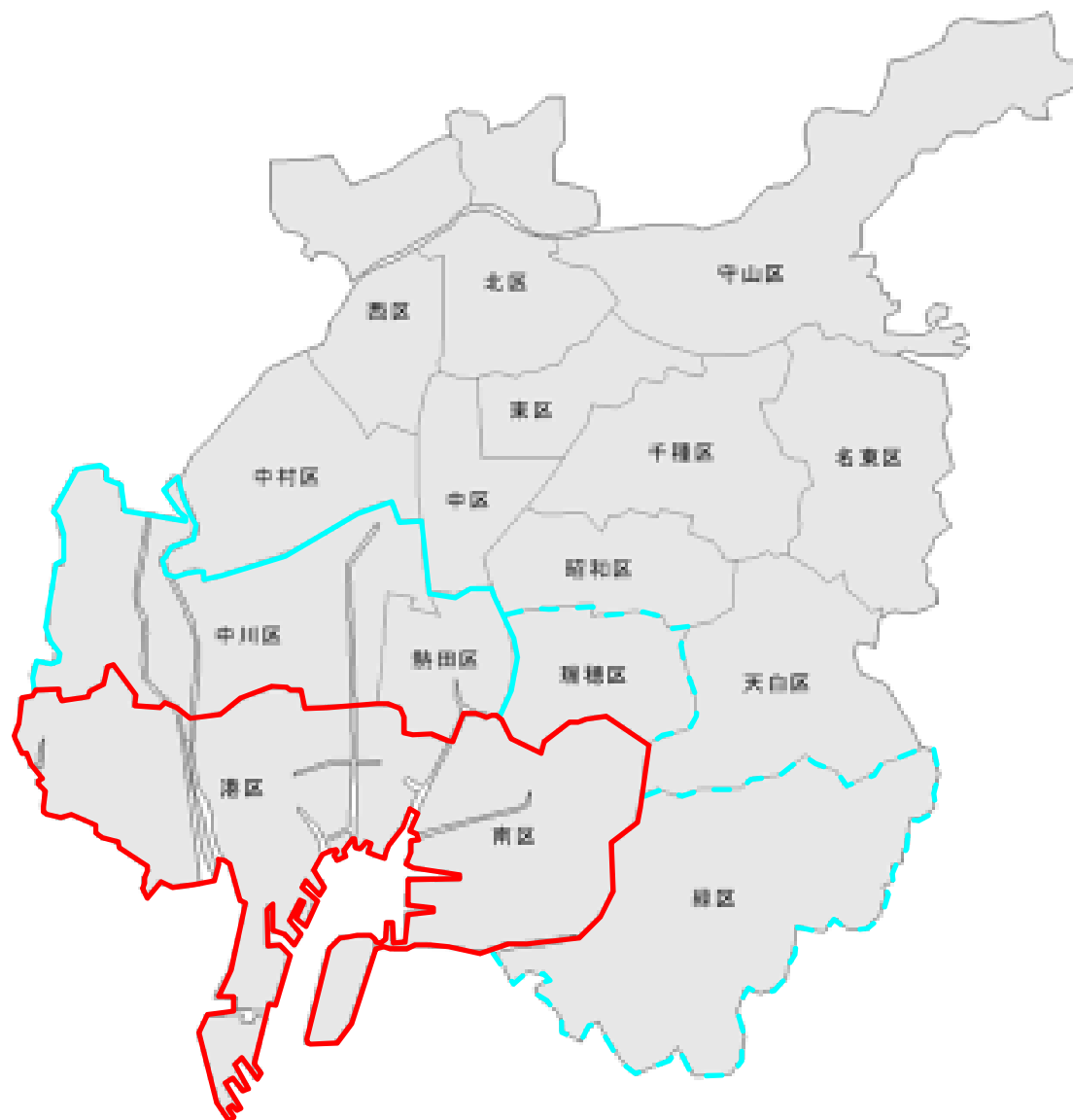
23年6月指定

3階建の屋上

23年11月追加指定

2・3階建

指定対象区域



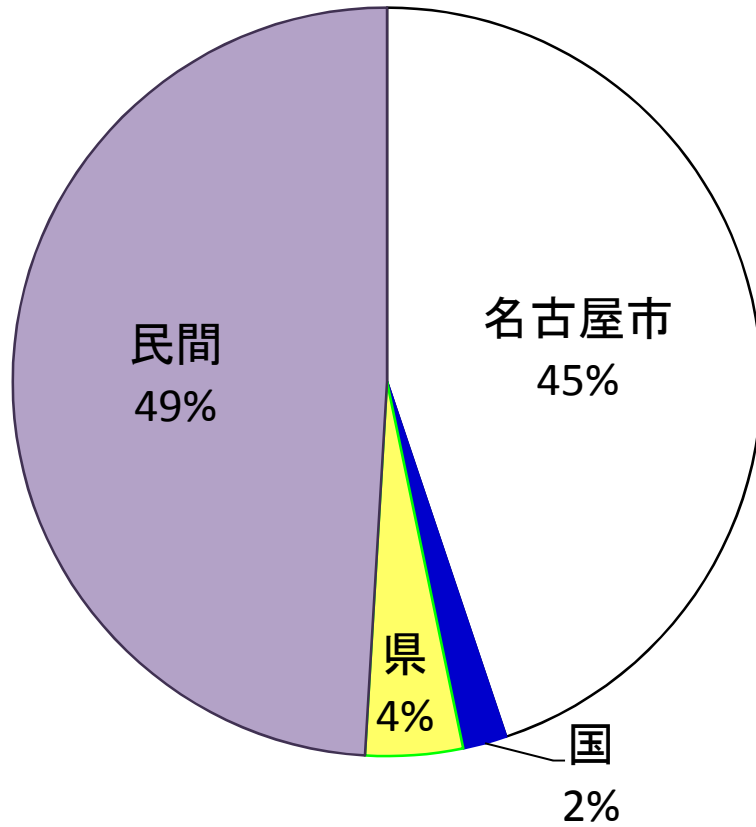
港区における分布状況(指定済)



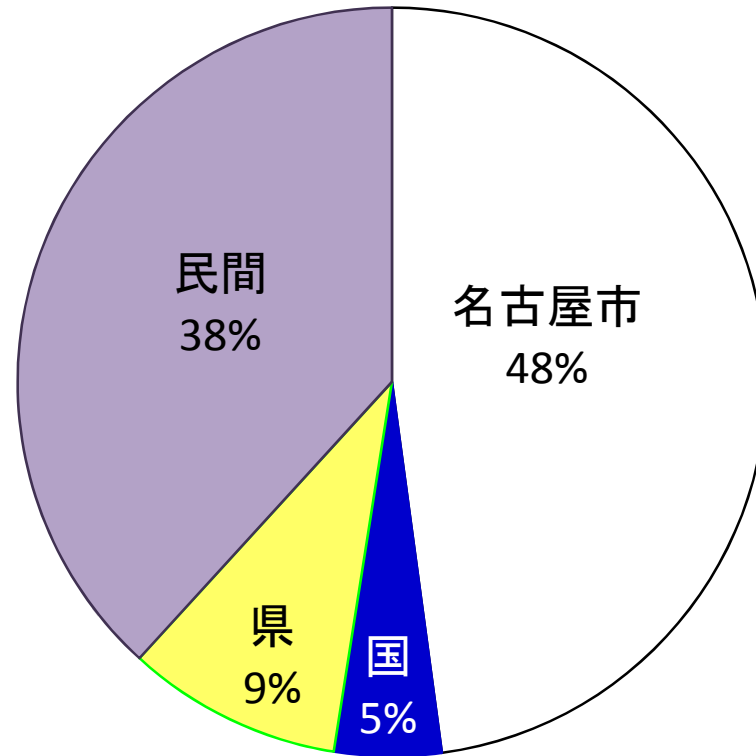
南区における分布状況(指定済)



指定状況



指定棟数別の割合



避難可能人数別の割合

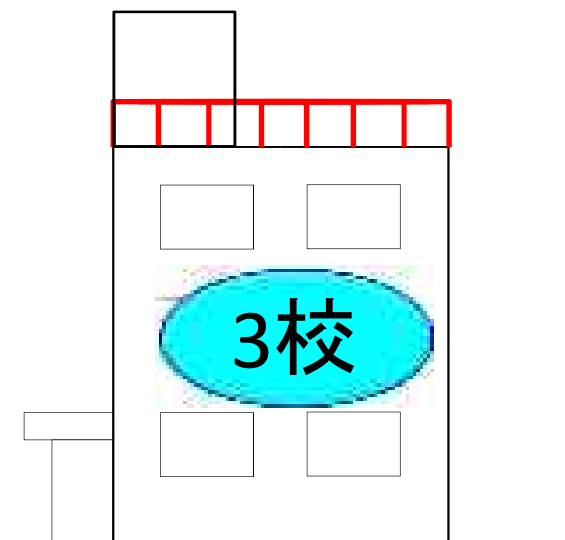
指定状況(整備前)

区分	児童・生徒数	避難可能人数	確保済みの割合
港区	12,009人	8,610人	72%
南区	10,326人	5,420人	52%

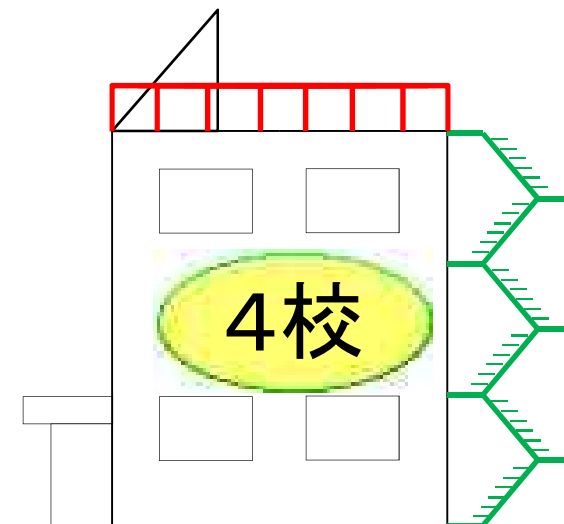
指定状況(未指定の学校)

区分	学校数	指定済の 学校数	未指定の 学校数
港区	28校	20校	8校
南区	25校	13校	12校

整備の考え方



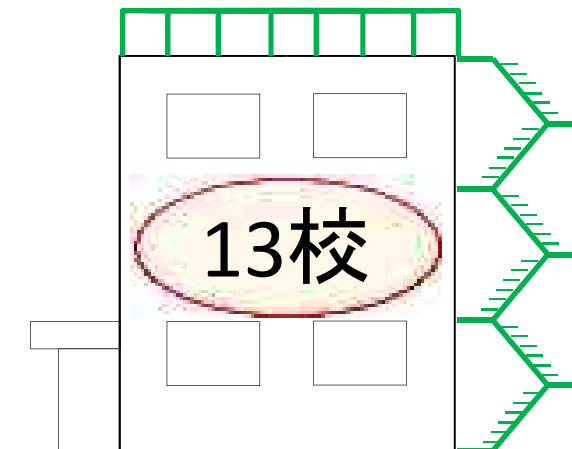
24年度 屋上手摺



24年度 屋上手摺



25年度 避難階段



25年度 屋上手摺



25年度 避難階段

避難に適した経路あり

避難に適した経路なし

屋上への避難経路あり

屋上への避難経路なし

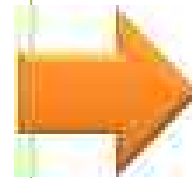
事前調査の実施

①屋上強度の確認

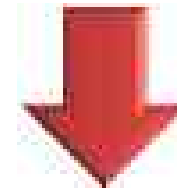
②避難経路の決定

③整備条件の整理

④仕様の標準化



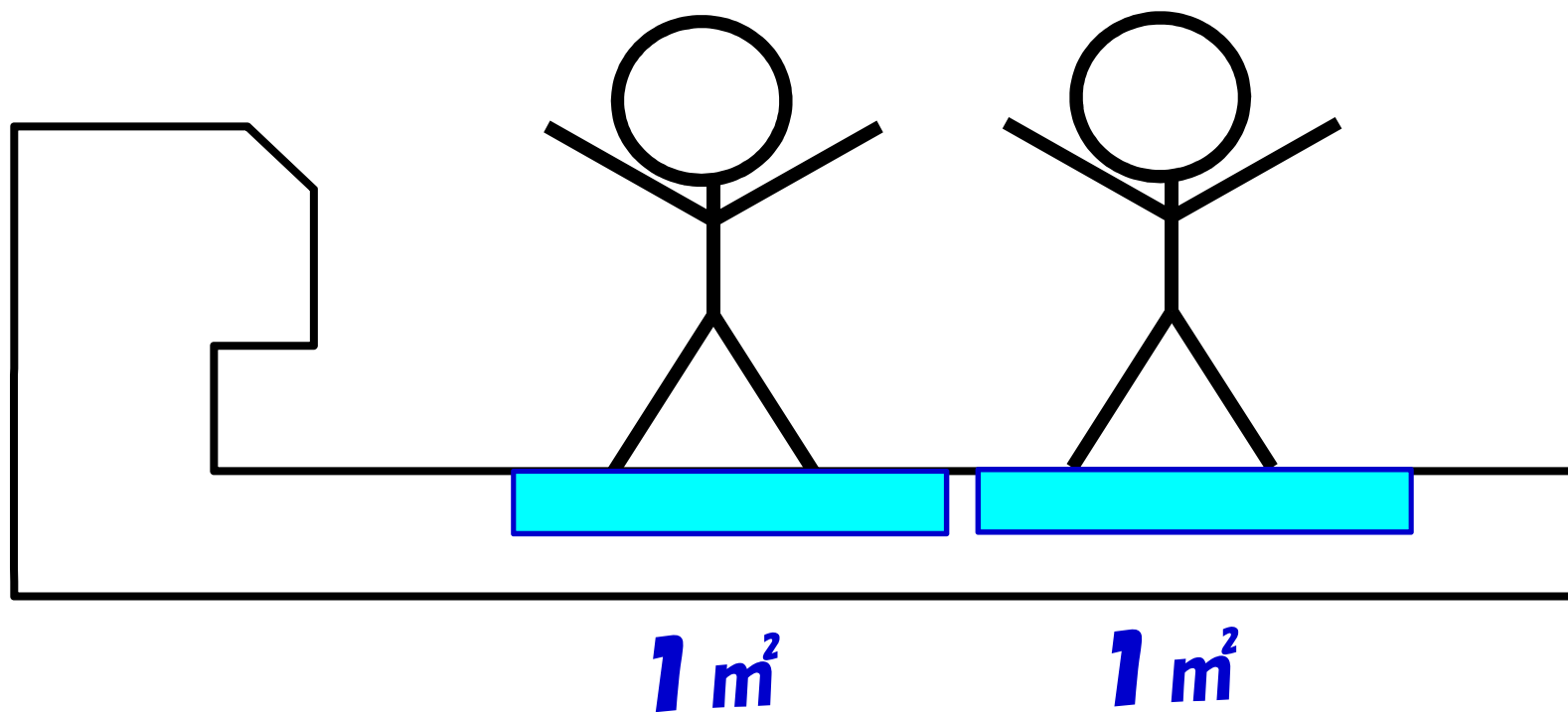
設計期間の短縮



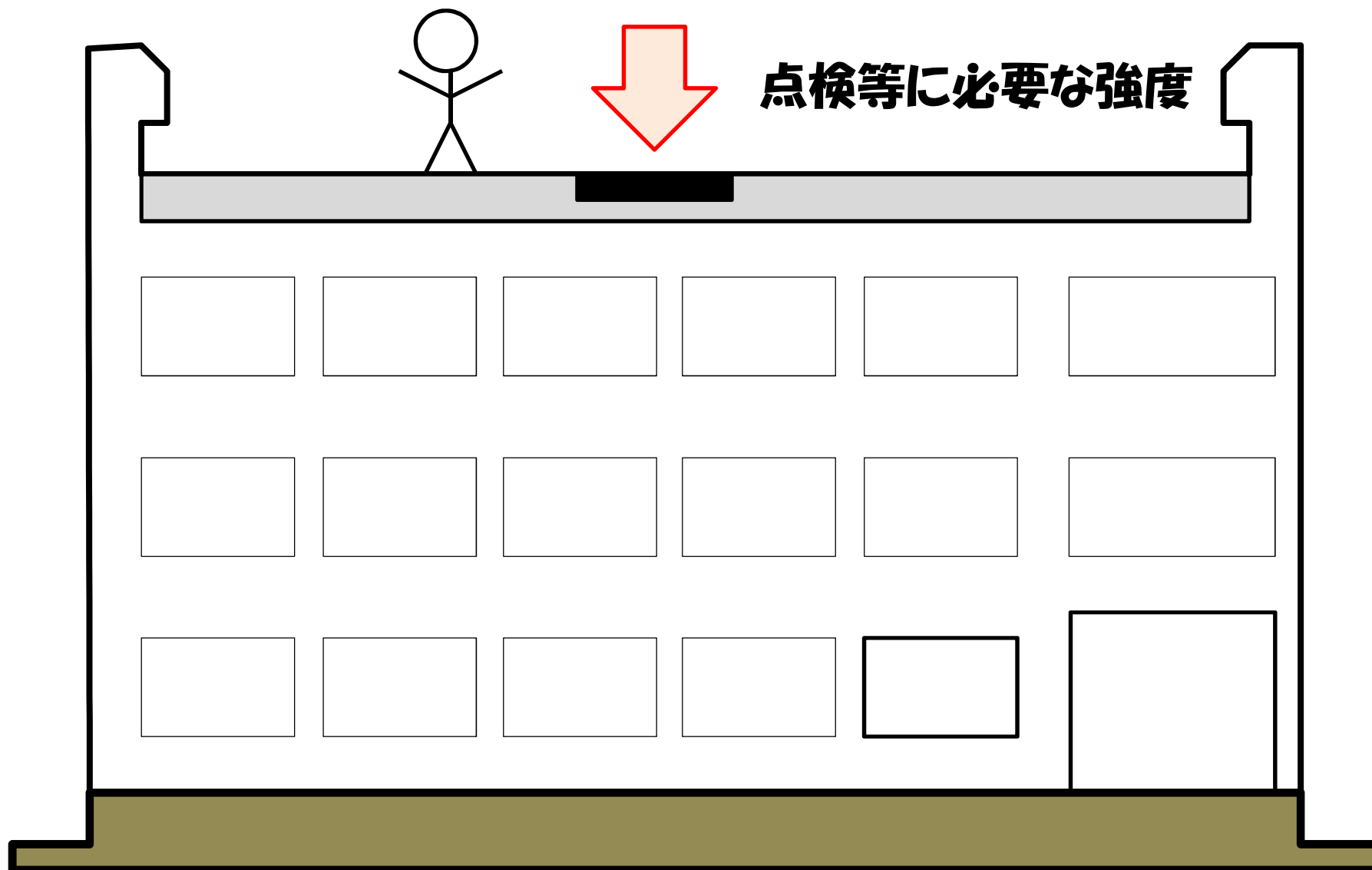
早期の指定

事前調査の実施①屋上強度の確認

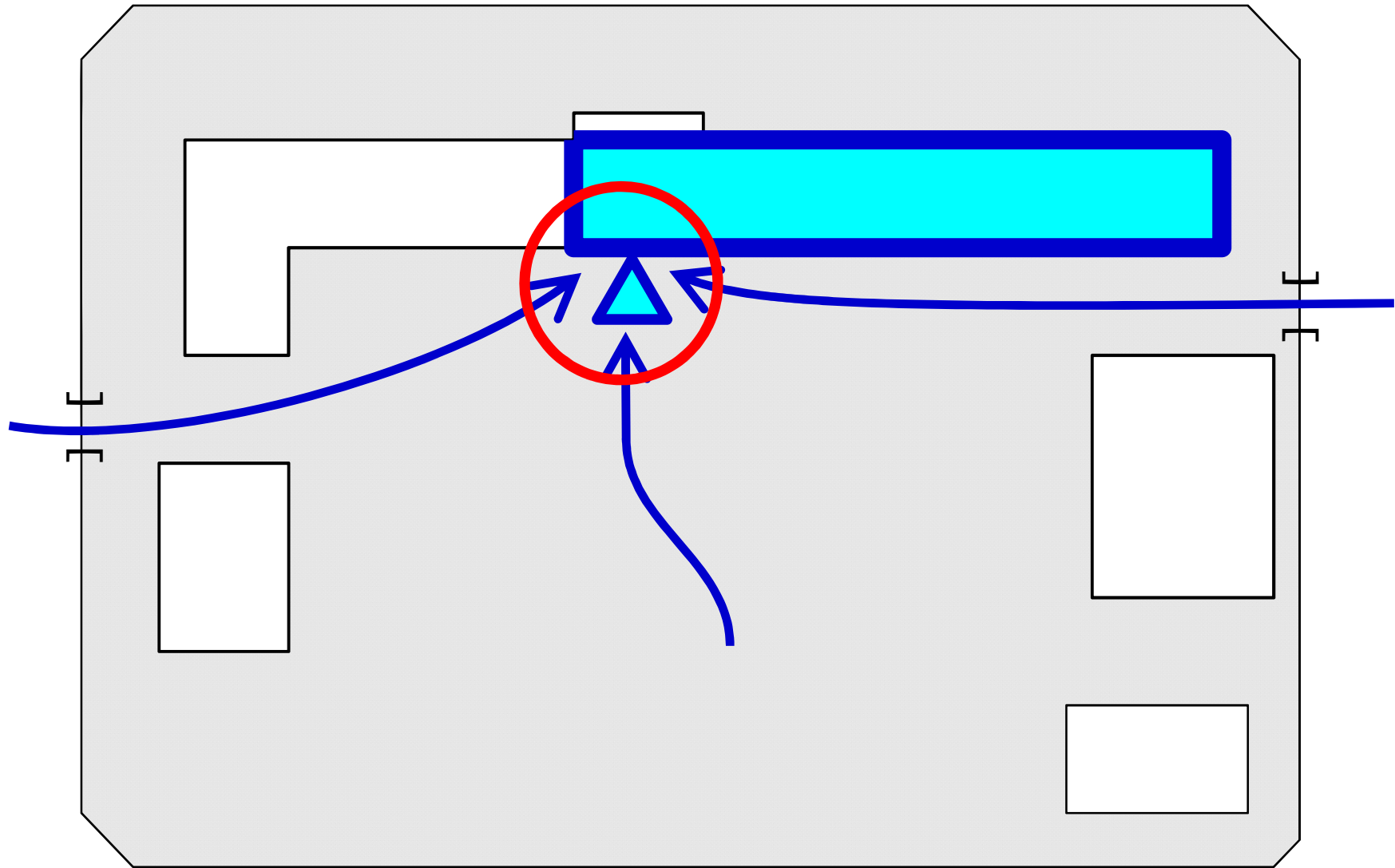
内閣府の基準に従い、
1人当たり 1 m^2



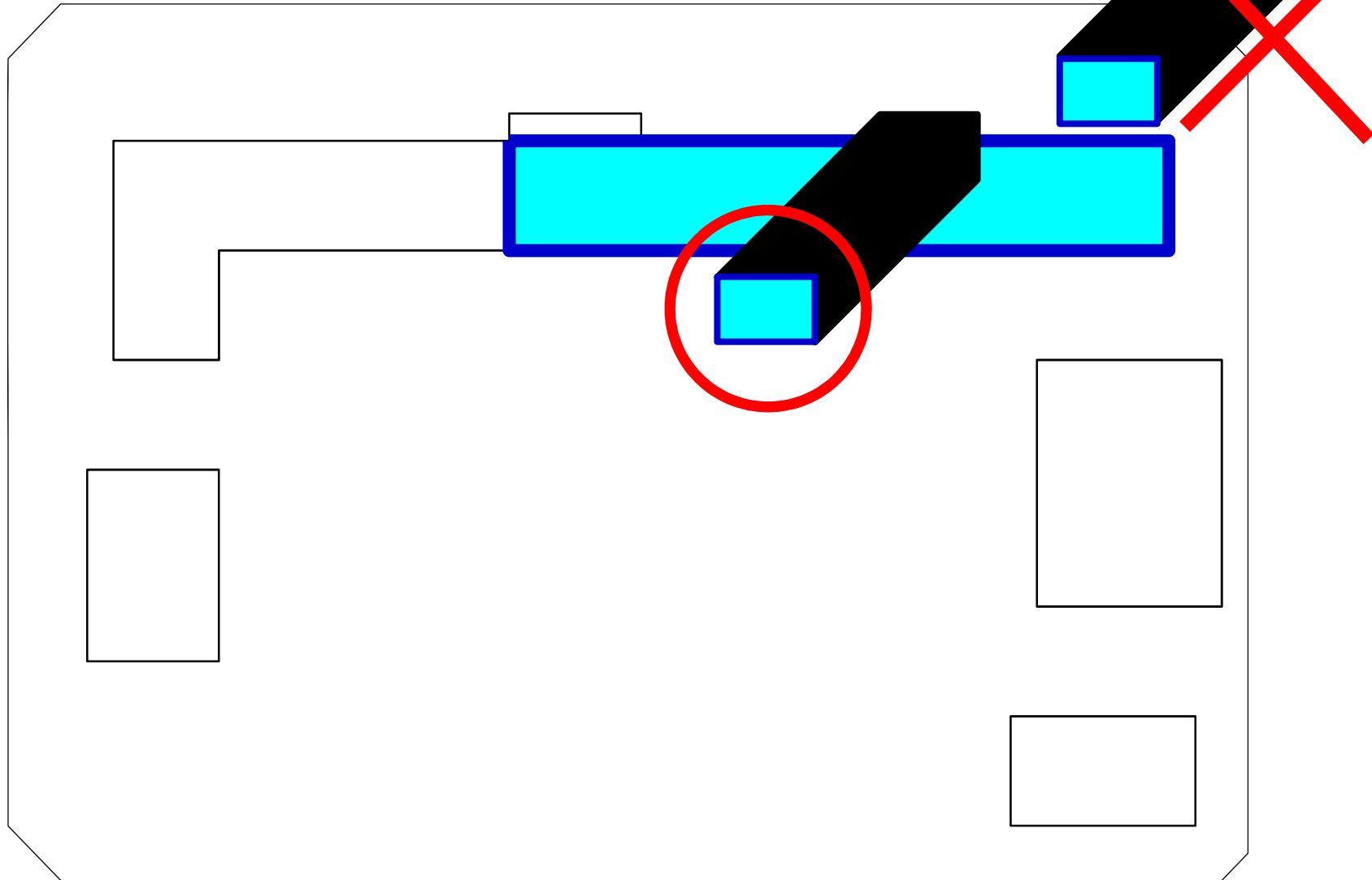
事前調査の実施①屋上強度の確認



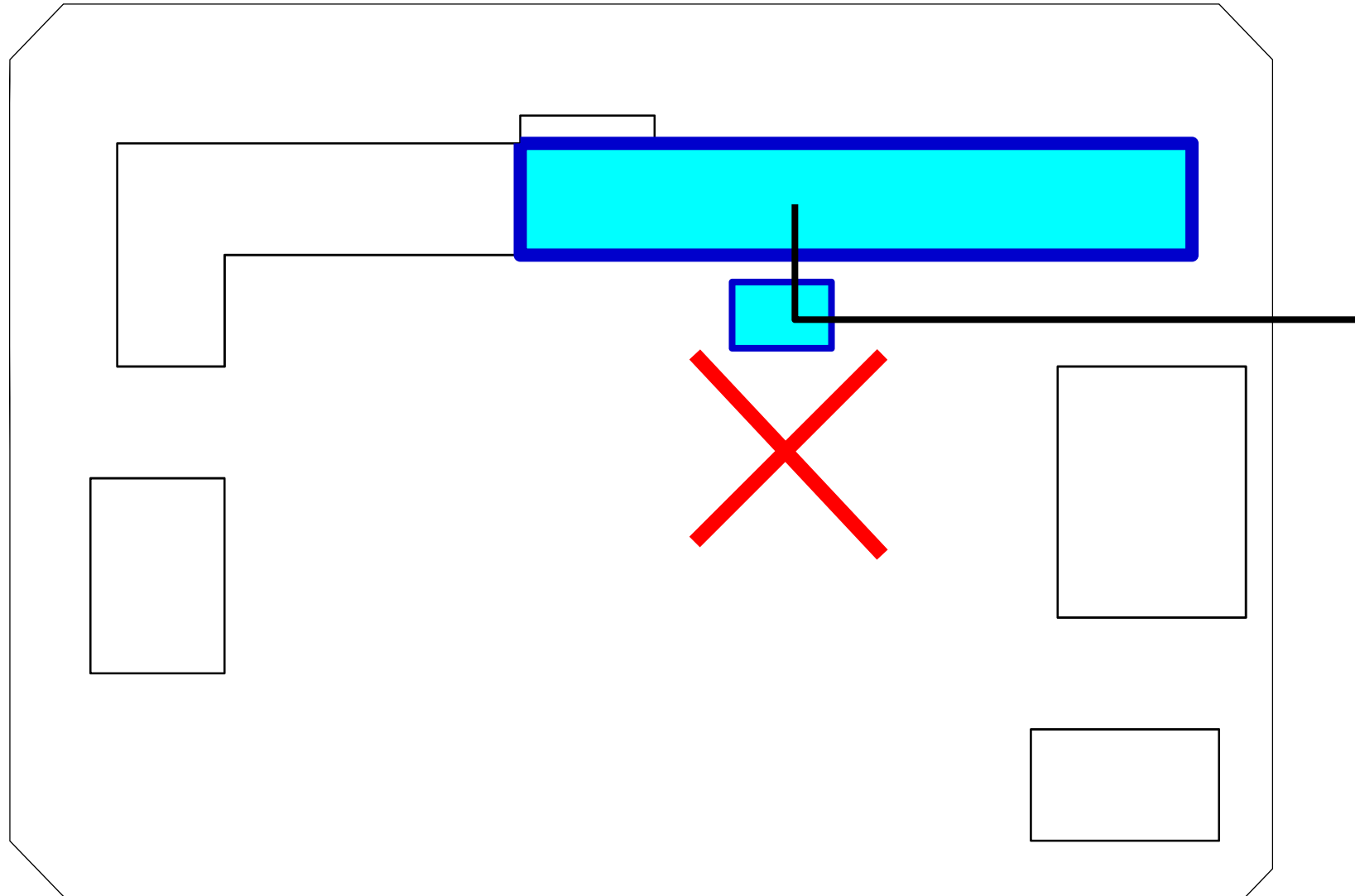
事前調査の実施②避難経路の決定



事前調査の実施③整備条件の整理



事前調査の実施③整備条件の整理



事前調査の実施③整備条件の整理

